

「育成を目指す資質・能力」を 児童生徒の生活に結び付ける学習活動

生活に結び付ける学習活動とは？

知的障害のある児童生徒は、学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活場面の中で生かすことが難しいという学習上の特性があります。そのため、実際の生活場面に即しながら、継続的、段階的に指導することが重要です。

また、「知的障害のある児童生徒の教育的対応」として、「生活に結び付いた具体的な活動を学習活動の中心に据え、実際の状況下で指導する」ことが挙げられています。

【参考】特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部) 第4章第2節1, 2
特別支援学校学習指導要領解説 知的障害教科等編(上)(高等部) 第5章第2節1, 2



そこで、「育成を目指す資質・能力」と「児童生徒の生活」を考えながら学習活動を設定していくことが大切であると考え、

「育成を目指す資質・能力」を 児童生徒の生活に結び付ける学習活動の設定

について提案します。

「生活に結び付ける」とは、学習内容を児童生徒の生活に沿うようにする、生かされるようにするということです。生活に役立つ指導事項を選択することや、知識・技能の習得・活用を目指すことではありません。学習活動を通して、芸術に触れて情感豊かな心を育てることやスポーツや音楽等に、生涯にわたって親しむ態度を育成することも大切です。そのため、幅広い体験をすることや感性を働かせること、主体的に取り組むこと、コミュニケーションを楽しむこと、他者と協働すること、自己を表現する喜びを感じることも重要な学習活動です。様々な学習経験を積み重ねることが児童生徒の人間的成長に関わり、現在及び将来の生活を豊かにしていくことにつながっていくと考えています。